

リアル感を追求した外装材を使った薬局

株式会社エーアンドシー設計 <http://www.aandc.co.jp>

病室からの見下ろしを考えたシンプルな家形に！



2024年11月に開院する“泉大津急性期メディカルセンター”の隣地に、調剤薬局大手“(株)日本調剤”の院外調剤薬局が建つことになり同建物の設計を担当することになった。調剤薬局の設置に際し細かな基準もあり、同社大阪支社の担当から教わる事も多くあったが全国的実績も多く標準の仕様も決められていた。但しそれらは内部のオペレーションに関わる事が多く、外部の“意匠デザイン”は設計者を尊重頂くことで今回の建物が完成した。シンプルな家形は隣接する病棟上部からの視線を考え、外装仕上げは店舗(薬局)部分には“木”の優しさ、バックヤード部分は“メタリック”な理性を対比させた。共に“素材”は窯業系サイディングで、



病院内(隣地)の通路に面する



病院より調剤薬局を見る

これまでサイディングの“何々風”は好んで使う材料ではなかったが建物用途からエイジングの優先ではなく限りなく“リアル感”のある“東レ・ラップサイディング”を使ってみた。実は本稿作成時に今最も著名な建築家K氏による“馬頭広重美術館”の外装に使われた木材の劣化と補償問題をニュースが取り上げていた。自身の経験から外装に無垢木使用への危惧の通り……と思う。



リアル感のあるサイディング



全面道路側には西日除けの庇(1.5m)を付



道路と病院どちらからもアプローチを！